

## 西岡研介<sup>記者</sup>のデッチ上げ記事に JR東海幹部が関与!?

9月25日付『中央ジャーナル』は、JR東労組が進めている『週刊現代』名誉毀損裁判で、執筆者の西岡研介記者に偽証の疑いが出てきたと報道しました。東京地検特捜部の捜査によると、西岡記者の取材源となった警視庁公安部の内部資料に疑いがあると見えています。

注目すべき点は、その内部資料の情報源とされる警視庁公安部B氏と共に密談をしていたのが、なんとJR東海幹部だということです。つまり、JR総連破壊策動にJR東海が関与していたということです。

また、西岡記者を愛してやまないJR連合・JR東海ユニオンのこの間の主張は、すべてデマということになります。JR東海ユニオンよ、これでも西岡記者に財政的支援を続けるの？テロリストキャンペーンに加担した罪は非常に重い！JR東海ユニオン組合員の皆さん、犯罪行為を続ける幹部と決別しよう！

中央ジャーナル  
平成20年9月25日発行 (8)

9月25日発行  
中央ジャーナル  
(文中の赤線は、編集のものです)

JR東労組裁判で西岡記者に「偽証」の疑い

講談社発行の『週刊現代』のJR東労組報道を巡る名誉毀損訴訟で、被告の執筆者である西岡研介記者に、「偽証」の疑いが出てきた。西岡記者がこの裁判で、情報源は公安警察だったという詳細な陳述書提出したのを受けて、JR東労組の

上部団体・JR総連が公務員法違反の罪で刑事告発した捜査結果と違いが、東京地検特捜部のこれまでの事情聴取に対し、西岡記者は警察幹部A氏とB氏から紹介された元部下のB氏の二人から捜査情報や内部資料等の提供を受けていたと、先の陳述書にほぼ沿う形で供述している模様だ。しかし特捜部のその後調べで、西岡記者が提供を受けたとされる警視庁公安部の内部資料等は、同部のモノとは全く違っていることが分かり、JR各社が同部の資料等を下に見まわされた疑いが強まって来たという。

また特捜部の事情聴取に対し、西岡記者は情報源として挙げた二人の実名公表は拒否した模様だが、そのうちの一人、B氏と目されている元警視庁公安二課長は現役時代から現職警務官俣、警視庁記者クラブ所属のマスコミ関係者、それにJR

東海の幹部社員四人で親睦会など称してゴルフや飲食等を通じて、JR東海との密談を重ねていたと捜査当局も把握している模様で、JR東労組報道の発端となった松崎明・元JR東海労働組合長の組合役員用疑惑が浮上した際には、(〇七年十一月不起訴、〇四年十一月三十日にボラントからミュンヘン経由で成田に帰ってくる。松崎情報)がこのメンバーを介して情報リークされたなどの「マスコミ工作が行われていた」といふ。当時、『週刊文春』記者だった西岡記者も情報リークされて成田空港で松崎元会長に突撃取材した一人だった。

# 『週刊現代』裁判で 西岡記者に偽証の疑い